

1. 評価結果概要表

作成日平成 21年 3月16 E

【評価実施概要】

事業所番号	2871300535
法人名	社会福祉法人 五輪福祉会
事業所名	グループホームのさか
所在地 (電話番号)	兵庫県丹波市山南町野坂209番地 (電 話) 0795-77-0767

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年3月4日	評価確定日	平成 21年 3月 25日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤3人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.4人	

(2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (10,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 330 円
	夕食	330 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.3 歳	最低 77 歳	最高 89 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大塚病院、大山病院 香良病院 保尾医院 河原歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外部評価で訪れた時は、桜の木々が芽を膨らませ始めている時期であった。玄関に近づくともホームの中から、主任が笑顔に満ちた表情で出迎えて下さり、他の職員やご利用者の方々も、次々に温かいお出迎えを頂いた。その温かさは、夕方、ホームを出る時まで変わることはなかった。緑の木々と周囲の山々は季節の移ろいを教えてくれ、ご利用者の長年培ってこられた“働く血”が騒ぎ始める。誰の声かけも必要はなく、自然と枯れ葉が落ちると、ほうきを持ってお掃除に出かけていかれる。ホームの中でも同様で、ご利用者向けのモップが綺麗に準備されており、時間がくると、掃除、洗濯・・・食器の片付けと、いつもの日課が始まっていく。あくまでも、“ここ(ホーム)の主人公はご利用者”であり、職員は、お一人お一人の役割が発揮され、思うように行動ができるように脇役として寄り添われている。“みんなで一緒に”という取り組みが行われていた時期もあったが、研修の機会も作られており、職員は、お一人お一人の生活や想いに心を配り、ご家族のお力も頂きながら、個別の関わりができるまでになってきた。大きな声で歌い、大きな声でお腹から笑い転げる。ご利用者が思い思いに自由に過ごせる環境が、このホームにはある。地域の方々と日常的に行き来できる環境ではない中、ホームとしては、あきらめない取り組みを続けており、ボランティアの方の来訪も確実に増えてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 一部の職員で改善計画書を作成し、全職員で改善に向け取り組んできた。その一部の内容として、①理念の共有に取り組んできたが、以前に比べると職員が理念を意識して業務にあたるようになった。②センター方式を活用し、職員全員が介護計画に関わるようになってきた。個別ケアの意識も強くなり、ご利用者お一人お一人を見つめることができるようになってきた。③地域との付き合いを多くするために、近くのスーパー等にご利用者と一緒に買い物に行く機会を増やした。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 「もっと時間をかけて、全職員で自己評価をしていきたい」と言うことが、19年度の課題でもあった。今年度は、主任を中心に、職員全員で自己評価に取り組んだ。項目を通して、日頃のケアのあり方や取り組み、職員の視点などを振り返りながら意見交換を続けてきた。最後に、施設長にも意見を頂き、まとめていった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3か月に1回、運営推進会議を開催している。自治会長、市役所の課長や係長、介護相談員、社会福祉協議会の支所長、ご家族等に参加頂いている。市の方からは、市の介護保険の情勢等を伝えて下さり、他の方々も地域の介護情報や感想等を教えて下さっている。実際に日々の生活の中で取り組んでいるテーマや課題を中心に、参加者の方からの質問を受けながら、それぞれのお立場からのアドバイスも頂けている。具体的な活動状況を報告していくことで、ホームの理解者は増えてきている。有意義な会議となっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、ご家族のお気持ちを知りたいと思っており、ホームに来られた時等に声かけを行っている。ご利用者の日々の暮らしぶり等、施設長、主任や介護支援専門員等が個別に報告している。介護計画作成に関しても、介護支援専門員が個別にお話を伺い、“センター方式”のシートにも一部記載して頂いている。写真等もホーム便りと共に郵送しているが、ご家族よりご意見等を頂いた場合は、資料等をご家族にお見せしながら説明しており、昨年度より、専用のノートに記録として残すようにしている。今後は、ご家族同士の交流の場を増やしていく予定である。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 福祉ゾーンと呼ばれている地域で、隣に併設の養護老人ホームがあり、他、介護施設等に囲まれている。養護老人ホーム入口から奥に入った所にホームの玄関があるため、地域の方々に知って頂くことが難しい立地条件にあった。“待つ”のでは無く、ホームの方から積極的に、地域の秋祭りや地域の清掃活動に参加してきた。併設の行事には、子どもたちが来て下さっており、今後は、ホームにも子どもたちが来てくれることを願い、取り組みを続けていく予定である。また、地域貢献としての取り組みで、講和等を地域向けに行っていくことも検討されている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より理念の変更はない。法人の運営方針の中には「利用者が地域社会の一員として…」という表現が入っており、平成13年の開設当初から、法人の理念を受け継ぎ、地域密着を考えてグループホームを開設した。ホームの開設当初から、「施設は地域の一員として…」という思いを大切にし、「利用者の人間性や自主性を尊重し、健康で心穏やかな生活を大切にします」という理念を作成しており、大切に職員に伝え続けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月4回のケア会議の中で、施設長や主任が「ご利用者個々のケアをおこなっていかないとけない」と伝え続けてきた。昨年度の外部評価以降、施設長は、あらためて理念に込められている意味を職員に説明した。職員も一つ一つの言葉の意味を深く見つめるようになった。ケア会議の中でも、「もっとご本人のことを知りたい」という言葉が職員の中から聞かれるようになってきており、ケアの奥の深さを学んできている。	右へ 続く	また、センター方式の研修に職員が交代で参加できており、その研修の成果が表れてきている。日々の生活の中でも、以前は、「みんなで外出・みんなで歩く…」という取り組みが多かったが、現在は、ご利用者お一人お一人の言葉を聴いて、ご本人の興味を引き出し、個別に対応していくことができてきている。職員は、お一人お一人のご利用者の生活歴を知り、その方らしい人生が送れるような取り組みを続けている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	20年11月から、お話ボランティアの方が毎週来て下さっており、ご利用者も楽しみにされている。ホームに来訪頂くまでには何回かの話し合いを行い、両者にとって最適な回数や方法を検討してきた。地域の秋祭りやお祭り、地域の清掃活動にも変わらず参加しており、併設の施設と合同で行う七夕祭りや運動会を主催した時も、ご利用者も一緒に楽しく参加している。日常的にも、地元のお店にご利用者と一緒に買い物に行き、地域の方々との交流を楽しまれている。	○	現在、併設の施設には子ども達が来訪している。今後はホームにも来て頂き、ホームでの子ども達との交流ができることを希望されており、ご利用者にとっても楽しみの場面が増えていくと思われる。ホームとしては、今後、直接、小学校・中学校に出向き、交流が図れるような話し合いをしていく予定である。また老人会等にも出向き、年に1回でも、ホームで取り組まれている介護の方法等の講和をしていくことも検討されている。地域貢献につながる取り組みでもあり、今後の更なる交流が広がっていくことを期待していきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は、外部評価までに時間もあつたため、主任は、ケア会議の場で、職員に自己評価の項目を含めて口頭で説明した。職員から項目に関する質問を受けながら、皆で意見交換を続けていった。その後、施設長にお渡しし追加して頂いたが、自己評価を通して、職員の願い(「もっと外出したい、研修に行きたいなど」)の確認もできた。また、昨年度の外部評価の結果も、一部の職員で改善計画書を作成し、他職員にも伝え、全職員で改善に取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げて欲しいもの、要望等を参加者に伺うようにしている。できるだけご利用者の身近な課題やテーマに絞り、参加者の意見を言いやすいような議題を選んでいる。関連する資料を配布し、現状の説明をしながら参加者の方からの質問を受けている。自由にざっくばらんに意見交換ができるようにしており、運営推進会議を通して、年々、ホームの理解者が増えてきている。自己評価、外部評価の結果の報告も行っているが、「なるほど…」「大変でしたね…」等、ねぎらいの言葉も頂けている。	○	今後、ホームの居間で、ご利用者と参加者が団欒して頂きながら、ご利用者の持っているお力を知って頂けるとより良いと思われる。地域の方々や、「ホームのご利用者との関わり方」を具体的に話し合っていけるようになることを期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成14年から、丹波市の相談員にホームに来て頂いており、相談員の方が、その後、運営推進会議にも参加して下さっている。また、定期的にホーム便りを市役所に郵送するとともに、ホーム内で課題がある時は、市役所の担当の方に相談している。担当の方も親身に相談にのって下さり、わかりやすく説明をして頂ける。丹波市の介護保険課の課長より、お電話を頂くこともあり、良い関係が築けている。市役所の方々にも、“グループホームのさか”と言う名前が浸透してきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること・知りたいこと・希望・要望を把握し続けており、月に1回から2ヶ月に1回程度、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりや健康状態含めて個別に報告している。また、暮らしぶりを写真に撮り、ホーム便りとともに郵送している。利用料などの請求書は毎月郵送し、必要時は電話での報告もしているが、職員は、なるべく直接、ご家族とお会いして、お話をしていきたいと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を置いている。また、ご家族がホームを来訪時、なるべく施設長、主任、職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言ってもらえるような働きかけを続けている。ご意見を頂けるように、ご自宅に用紙をお送りし返送頂くシステムも作っている。ご家族より、ご意見・疑問等の申し出があった場合は、必要な資料・データを準備し、その資料をご家族にお見せしながら説明するようにしており、その記録を残すノートも準備している。ご家族に納得頂ける取り組みを続けている。	○	年に4回、“ホーム便り”を作成しており、日頃の暮らしぶりや行事でのご様子がわかるように、写真を多く掲載している。今後は、更に、ご家族同士の交流や意見交換をして頂く機会を作っていきたいと考えている。ご家族から、運営に関するご意見も出やすくなる可能性もあり、今後、ご家族の方々にも意見を伺いながら、“ご家族が集まれる場”と一緒に作っていかれることを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である施設長は、職員が交代することで、ご利用者へのダメージがあることを理解しているため、基本的に異動を行なわないようにしている。職員間の仲が良く、職員の休みの希望に極力応じたり、基準以上の配置にするとともに、夜勤専門の職員を4人配置している。調理は、主に併設の施設で作ってもらうシステムにしている。施設長など運営者、主任も、職員の話を良く聞くようにしている。日頃からチームワークを大切にしており、離職は少なく、年に2回の懇親会も行なわれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への受講回数は確実に増えてきている。施設長は、職員の育成が不可欠であると考えており、毎月の施設内処遇研修時の勉強会と合わせて、併設施設と合同で年に2回、研修が行われている。また、施設長は職員の研修受講履歴を記録しており、個々の職員に応じた外部研修に参加できるような声かけをしている。そのためのシフト調整も行われている。研修に参加できなかった方には、会議の時等に伝達研修が行われており、本の購入もして頂いている。現場では、施設長・主任等が指導にあたっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、他ホーム等との交流を通して、ネットワーク作りや勉強をしていくことが必要であると考えている。年に4回、丹波市介護保険サービス連絡協議会や県、全国宅老所、グループホームネットワークにも参加している。研修会や事例検討、見学の受け入れ、電話での日常的な情報交換を行い、サービスの質の向上に向けた取り組みを続けている。	○	昨年以降、丹波市内にある4箇所のグループホームと連携を深め、同じ地域のホーム同士でのネットワーク作りを行ってきた。施設長や主任は、今後は相互訪問をしていきたいと考えている。相互訪問を通して、職員の視点も広がり、あらためて、このホームでの生活を振り返ることができる機会になっていくと考えられる。更なるネットワークの広がりができていくことを期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居前に、職員が病院やご自宅、デイサービス等を事前に訪問したり、ホームに入居する前に、ご本人にもホームの見学に来て頂き、職員とも顔馴染みになれるようにしている。見学は、お茶の時間でもある15時頃に来て頂き、他ご利用者と一緒にお茶をして頂くように配慮がされている。他のご利用者が温かく受け入れて下さるので、自然と会話が弾み、見学に来られた方(ご本人とご家族)も安心し、そのまま入居される方もおられる。ご家族や在宅の担当介護支援専門員との情報交換を密に行い、ご本人らしい生活が継続できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、漬物の漬け方・昔の習わし・昔のことわざ等を、日々教えて頂いている。一緒に料理をする中で、職員とご利用者がともに完成を目指す場面もあるが、ご利用者から励ましの言葉を頂くことも多い。「ありがとう」「気を付けて帰るなさい」と言う言葉は職員の胸に届き、その都度、職員は嬉しく思い、感謝の気持ちをご利用者に伝えている。両手で、職員の頬を撫でて下さる方もいて、ご利用者に支えて頂いていることを職員は実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ご利用者の方に昔のこと等を教えて頂く中で、思いや希望を語って頂けるように努めている。センター方式を活用するとともに、意思疎通が困難な方には、ご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と目線を合わせることで、ご本人の思いに近づけるよう、ご利用者が言われた言葉を大切に、記録に残している。職員が、何気ない行動やしぐさも見落とさず、その行動に込められている本当のお気持ちやご希望(本当は眠りたいのでは?等)を知るための取り組みを続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、あらかじめご本人、ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ皆で話し合って作成している。一早く「センター方式」を活用し、「私の願い」という視点を職員は大切にしながら、「その方らしさ」を把握し続けている。毎日の生活の中で、職員全員が意識して、お一人お一人のご希望を把握し、「地域で暮らす」という視点を持ち、ご利用者主体の介護計画になるように努めている。介護計画の表現はご利用者にとってわかりやすい表現を心がけている。	○	ご利用者主体の介護計画を作成していきたいと考えている。現在、1表、2表と合わせて、3表も活用して、介護全般に渡る支援内容が明記されている。今後は、ご家族との話し合いを増やしていくためにも、介護計画の中に、ご家族の役割を明記するとともに、ご本人が現在、役割として担っておられることも記載していくことで、ご本人の意欲の維持、向上にもつながる計画になっていくと思われる。今後も引き続き、ご利用者本位の計画が作成されていくことを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	朝と夕方の申し送りの時に、全員の体調や生活の変化の有無を職員間で共有している。更に、月に2回のケアプラン会議やケア会議の中で、全員の体調や要望等の意見交換を行っている。短期目標に合わせて、モニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見を伺いながら介護計画の見直しを行っている。状態が変化した場合は、随時、見直しを行い介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、急な受診の対応等をしている。かかりつけ医への報告を徹底し、異常の早期発見、早期治療につなげている。入院中もお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか、かかりつけ医との連携を取り、早期退院につなげられた方もおられる。お盆やお正月の外泊支援のため、荷物の準備や介護のアドバイスもしている。地域の方からの介護相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族等の要望を伺い、以前からのかかりつけ医で受療頂いている。“往診を受けられる”と言うこともあり、ホームの協力医療機関に変更された方もおられる。かかりつけ医とは連携ができており、月に1度の往診時に、ご利用者の状況、暮らしぶり等を細やかに報告しており、いつでも相談できる関係ができています。かかりつけ医からも、適宜、必要な助言を頂いている。ご家族に通院介助をしてもらっているが、その結果はホームにも教えて頂いている。往診時の結果もご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則、要介護2程度の方で、自立歩行ができる方を、入居の条件にしており、終末期の対応は行っていない。入居時に、ホームの方針をご家族等に説明し、ご理解頂いている。日頃から、重度化しないよう、健康管理や生活リハビリを心がけている。ホームでの生活が難しくなれた場合は、ご本人やご家族との話し合いを繰り返す行い、施設長の方が、次の“適切な生活の場所”を探して、ご提案するような支援も続けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は全員、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう注意している。ご利用者は目上の方なので体調にも配慮し、その時に応じて柔らかな言葉かけや方言を使うように心がけている。職員が、ご利用者の居室を入室する時は必ず声かけを行い、ご利用者を否定するような言い方はしないようにしている。職員が個人情報に関する規則を、入職時に施設長より説明を受け誓約書を書いている。話しをする時は他に聞こえないよう配慮するとともに、情報の漏洩防止にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何かすることはありますか?」「何かできることはありますか?」など、ご利用者の方から言ってくることも多い。職員が、ご利用者の傍らに付いて、できることを一緒にさせて頂くことも多い。ご本人の体調にもよるが、希望を言えない方であっても、なるべくご本人のペースで自由に行動して頂くようにしている。座りっぱなしや寝たきりにならないよう声かけして、ホームの前の庭に出たり、職員が隣に座って話をしたり、楽しいレクレーションを行っている。	○	個別ケアと言う言葉は職員に浸透してきているが、主任も職員も「まだまだ、できていないのでは?」と考えている。これからも意識をして、より“その人らしい暮らし”となっていく取り組みを続けていきたいと思っている。職員の言葉が“ご本人の行動を制止する言い方になっていないのか”等、全職員で確認し合いながら、気になる言葉が見つかった時は、会議の時に職員同士でロールプレイ等をされてみてはどうか。更なる質の向上に向けた取り組みが、行われていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に食べたい物のご希望を聞いたり、食材の買出し・下ごしらえ・料理・食器洗い・テーブル拭き等、お一人お一人のお力に応じた役割を担って頂いている。併設の施設で食事を作ってもらっているが、月に8回、自炊の日も設けている。時々外食したり、菜の花などの旬の物等を利用し調理している。手作りのランチョンマットを敷き、職員も同じテーブルと一緒に食事をしており、楽しい食事となるよう毎日心がけている。食べやすいように、ご本人に希望を聞いて食事を小さく刻む時もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4回、入浴日を決めている。希望があればシャワー浴等でも対応している。1年前、お風呂の改修を行い浴槽内にも手すりを付けたが、ご利用者からも好評である。羞恥心への配慮も心がけ、基本的には一人ずつの入浴にする等、配慮をしている。シャンプー、石鹸(石鹸入れ)等も、ご本人のお気に入りの物が用意されており、季節感を出すためにゆず湯をしたり、入浴時の会話も大切にしている。ゆったりと楽しい入浴となるよう配慮している。併設施設の大きなお風呂を利用することもできている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮して頂けるよう、食後の食器洗いや洗濯物たたみ、外のプランターに野菜や花を植えて下さる方もおられ、生活の中で役割を持って頂くようにしている。併設施設の音楽クラブや他のクラブに参加することを楽しみにされておられる方も多い。歌や楽器演奏、書道等も楽しまれている。日々の会話の中で昔からの知恵を教えて頂ける方もおり、活躍の場がより多く作れるよう配慮している。	○	まだまだ、ご利用者の役割を作っていけるのではないかと職員は考えている。楽しみごとも含めて、ご利用者と職員で話し合い、更なる、生き活きたした生活になっていけるような取り組みが、生まれてくることを期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、海や馴染みの地元の店など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。ドライブにも月に2回くらい行っている。地域に出かける機会も増えてきており、ご本人の意向に合わせた外出ができるようになっている。ホームの前は、一面、緑の山々が広がっており、春には満開の桜が咲き誇り、その後は緑の木々が目を楽しませてくれる。気分転換のためにも、お天気の良い日は玄関の外に出て、みんなで日向ぼっこしている。	○	今後も引き続き、外出の回数を増やしていきたいと職員は考えている。セビアの写真を見て頂き、“行きたい”と言う気持ちを持って頂く取り組みを続け、職員も一緒に楽しみながら外出を増やしていく予定である。以前から習慣とされていた外出先を把握していき、その外出先と似たような場所を、ホームの近くで見つけ、お連れしていきたいとも考えている。外出時に会話が弾むことも多く、更なる楽しみや気分転換が増えていくことを期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、朝9時頃から夕方6時頃まで開放されており鍵はかけておらず、ご利用者やご家族の方には自由に出入りして頂いている。玄関は、出入りの確認ができるようにチャイムを付けており、職員同士で声をかけ合い、ご利用者お一人お一人の行動の確認、見守りを行っている。併設の施設職員や近所の方にも、何かあればご協力頂けるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	開設時より、スプリンクラーが設置されており、併設の施設と合同で火災訓練を行っている。年に3回実施し、職員・ご利用者・地域の方々・消防署や消防団の方が参加し、火災時と合わせて夜間を想定しての訓練も行っている。ご利用者は、張り切って訓練に参加されている。消防団の方に、避難時のご利用者の様子を確認して頂き、アドバイスをもらっている。災害時に備えて、併設の施設の方に、3日間の食料や水の確保ができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、併設施設の栄養士が作成しており、栄養バランス等の管理もできており、野菜を多く摂取できるようにしている。主任は、月に1回、併設施設と合同の食事委員会に参加し、ご利用者の好みや要望を伝えるようにしている。ご利用者個々の好みを把握し、その好みに応じた個別の調理も行なわれている。ソースや醤油、マヨネーズ等を食材にかける時にも、一人一人に何いながらかけるようにしている。お一人お一人の食事量・水分量も把握しており、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者は、居間で過ごされることが多い。居間からは、併設の施設との間に作られた中庭を見ることができ、玄関側の桜の木々も見える。ガラスを多く使用しているため、空間としての広さを感じさせる。居間は、明るい柔らかい優しい色彩になるよう、壁の色・電灯などに配慮されており、季節の花を飾ったり、ご利用者が作成した季節感のある飾り物を心がけている。いすだけでなく、一部畳も置かれており、くつろげる配慮をしている。廊下全体の見晴らしも良く、換気扇により臭いがこもらないよう注意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室は、併設施設と共用の中庭に配置されており、中庭の木々やお花を部屋から眺めることができる。ご本人、ご家族とも相談しながら、箆笥・衣装ケース・ぬいぐるみ・カレンダー等を持ってきて頂いている。ご家族が、ご本人の大好きなお花を持参し、お部屋に活けて下さる方もおられる。職員も、ご本人が安心して生活できるように、観葉植物を置いてさしあげたり、ご本人の片付けをさりげなくお手伝いする等、混乱することが少なくなるような心配りを続けている。		